



56 水口高校2年 山田 聡子さん(水口町城内)

仲間の声援を背に 持ち前の集中力で国体優勝

先月山口県で開催された国体に出場した水口高校2年山田聡子さんは、ライフル射撃ピストル種目少年女子の部において、日本新記録で優勝を果たしました。

この競技は、長さ40センチ重さ850グラムのピストルを片手に持ち、10m離れた標的を50分間で40発を打ち抜き得点を競うスポーツです。

国体を終え、母校に戻り練習に励んでいる山田さんを訪ねお話を伺いました。

●国体優勝おめでとうございます。喜びの声を聞かせてください

—とにかく嬉しかったです。でも自分ひとりの力で優勝したのではなく、指導してくださった顧問の先生や、支えてくれた仲間がいたから優勝できたと思っています。みんながいてくれなければ優勝できなかったと思います。

●射撃というスポーツは大変珍しい競技だと思いますが、なぜ射撃を選ばれたのですか

—中学まではバレーボールをしていましたが、高校に入学したとき「ほかの学校ではできないスポーツがやりたい」という思いから、ライフル射撃部に入部しました。

●射撃はメンタルスポーツだと聞きましたが、精神力・集中力を養うために心がけていることは。

—気持ちをコントロールして競技を行なうのはとても難しいので普段の練習から緊張した空気づくりに心がけています。試合では、常に前で競技している選手の動きを見て集中力を高めています。

●初出場の国体で優勝。将来の夢はオリンピック出場ですか。

—オリンピックは確かに憧れますが、まだ想像がつかません。今は目の前の試合に集中することだけを考えています。当面は今月大阪で開催される近畿高等学校ライフル射撃選手権大会で上位に入り、来年3月に行なわれる全国高等学校ライフル射撃競技選抜大会の出場権を獲得することが目標です。

仲間思いで謙虚な山田さん。練習に入るとあどけなさが残る表情から凛とした表情に一変。競技者としての鋭い眼差しが印象的でした。

▲集中力を高め練習する山田さん



第19回忍者の里杯 親善ゲートボール大会

甲南グラウンドで10月8日、忍者の里杯親善ゲートボール大会が開催されました。今年で19回目を迎えた大会は、県内外から95チーム、600名を超えるゲートボール愛好者が集い、日頃磨いた技を競い合いました。



▲声援を受けプレーに集中する参加者

はつらつプレーで親睦深める

甲南グラウンドで10月8日、忍者の里杯親善ゲートボール大会が開催されました。

被災地の子どもたちにピアノを

ピアノを贈ろう コンサート

東日本大震災で被災した学校や公民館などにピアノを贈ろうと市内外の有志が企画したコンサートが10月9日、あいこうか市民ホールで行なわれました。

このコンサートには、被災地出身の音楽家と、地元滋賀県出身の音楽家が出演し、ピアノ、バイオリン、クラリネットから奏でる童謡やクラシック音楽の美しいメロディーを観客は楽しみました。

また甲賀市を中心とする合唱愛好家により結成されたコーラスグループ「アフター・アワーズ・コール」も出演し、ピアノ奏者らと被災地にちなんだ曲「青葉城恋歌」や「上を向いて歩こう」などを披露しました。

このコンサートの収益金は、被災地の文化芸術団体へ寄託されます。



▲出演者全員による合奏



元気なまちかど

貴生川小学校飯道山登山



▲行者巡りに挑戦する児童

貴生川小学校の3～6年生が10月12日、学校裏の飯道山に登りました。登山を通じて、体力づくりと学年間の交流を深める目的で学校行事として毎年行なわれており、この日は6つの色別に児童を分け、引率の先生や保護者らのサポーターと一緒に約3kmの山道を登りました。

途中、岩が転がり、足元が不安定な場所も多くありましたが、上級生が下級生の手を取り安全な道へ誘導し、励ましあいながら頂上をめざしました。頂上に着くと、その昔行講が修行したとされる「行者巡り」を飯道山行者講の皆さんの指導により、6年生が体験。鎖を使って斜面を登ったり、岩場の隙間を通るなど、過酷な修行メニューに真剣な表情で挑戦していました。また、3～5年生はウォークラリーを行い、ポイントごとに出題される難問珍問クイズに各班で答えていました。秋風が気持ちよく頂上はすっかり秋の色が濃くなっていました。

登山を通じて 仲間との交流深める

まなびの体験広場・ 甲賀市エコフェスタ

碧水ホールで10月8日、まなびの体験広場2011「ひとみの輝く甲賀っ子まつり」と甲賀市エコフェスタが同時開催され、多くの家族連れなどが訪れました。

会場には、市内の高校、専門学校生、シルバー人材センターの会員の皆さんが企画した体験コーナーや環境を考えるコーナーが並び、参加者はいろんな体験を楽しみながら、エコについて学びました。



▲手動発電を体験する親子

楽しく学びながらエコを考える

大きなおイモを掘ったよ

鮎河保育園芋ほり



▲イモのつるを引っ張る園児たち

鮎河保育園児5名が10月13日、園内の畑で鮎河老人クラブの方と一緒にサツマイモを収穫しました。

園児たちは大きく伸びた芋のつるを「せーの」の掛け声で引っ張りますが、途中でつるが切れ、勢いあまって尻餅を付くなど悪戦苦闘。老人クラブの方の助けを借り、ようやくつるが抜けました。

今度は地肌から少し出ている茎を目印にスコップなどを使って掘っていきます。しばらくすると赤紫色した大きなサツマイモがたくさん出現。園児たちは、歓声をあげイモを掘り起こし、大人たちに見せていました。

収穫したサツマイモは、早速3時のおやつに蒸かしてイモとして出され、秋の味覚を楽しみました。

小さな子どもを見守る地域のおじいさん、おばあさんの笑顔は園児たちにとっては、暖かい秋の日差しのように感じたことでしょう。